



活動事例集

～市町村老連及び単位クラブの会員増強運動への取組み事例～

SC 大阪若手委員会

目 次

はじめに	1
【市町村老連の事例】	2
・ 交野市星友クラブ連合会	3
・ 高石市シニアクラブ連合会	4
・ 田尻町長友会連合会	5
【単位クラブの事例】	6
・ 箕面市 唐池シニアクラブ	7
豊川南第2豊寿クラブ	8
箕面北第2敬友会	9
・ 豊中市 みゆきクラブ	10
・ 茨木市 彩都シニア倶楽部きらり	11
・ 柏原市 田辺福寿会老人クラブ	12
・ 富田林市 みのり会	13
・ 高石市 第1区老人クラブ高千代会	14
・ 泉大津市 条南町長生会	15

はじめに

SC 大阪では、平成26年から5か年計画の「4万人会員増強運動」への取り組みを終えた後、引き続き「+1（プラスワン）友だち入会作戦」をキャッチフレーズとして会員増強運動に取り組んでいます。

しかし、残念なことに5年間で33,260人が、減少する結果となりました。

このような状況の中でも会員を増加させている市老連や単位クラブがあります。

そこで、SC 大阪若手委員会では、そのような老連や単位クラブの取り組みの事例を紹介することが、会員増強運動の推進につながればと思い事例集を作成しました。

健康寿命をのばして、ステキなシニアライフを送るためには多くの仲間が必要です。

この事例集が、会員増強運動に取り組むみなさんにとって少しでも参考になれば幸いです。

2019年3月

SC 大阪若手委員会

委員長 吉野武彦

市町村老連の事例

◇ 若手部主体のゴルフ大会で会員増加 ◇

交野市 交野市星友クラブ連合会（クラブ数：24 会員数：2,179 人）

若手部発足の平成 23 年会員増加のための検討をし、4つの企画を実行しました。
そのひとつのゴルフ大会は、地元の交野カントリークラブの協力を得て平成 24 年より大会を始めました。

【会員数の状況】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5年間の 増加数
会員数	1,834	1,917	1,944	2,009	2,083	2,179	
増加数	-	83	27	65	74	96	345

会員でない人も参加できる

大会を会員だけでなく非会員の方も参加できるようにしました。

参加費は、会員と非会員とで差をつけることにしてその額を老人クラブ会費の年額程度にしました。

「それなら会員になる。」と入会する人が増えてきて、ゴルフ大会を通じて7年間で40人の入会者がありました。

多くの方が参加することで、地域の親睦が図れたことも効果がありました。

また、大会の商品を全て食品にしたことも参加された方には喜んでもらえています。

現在もゴルフ大会は、会員でない人に対して星友クラブのことをPRする良い機会になっています。

今後の課題

参加希望者は多いのに、大会の時間の関係で募集人数を120人以上募集できないことが、一番の課題です。

また、参加人数が多いので1番スタートの人が、最終スタートの競技終了まで長時間待たないといけないことも課題になっており、星友クラブのカラオケ大会等のビデオを流したり、頭の体操などをする工夫もしています。

◇ 組織として会員増強に取り組む ◇

高石市 高石市シニアクラブ連合会（クラブ数：42 会員数：4,302人）

市シニア連として会員増強について下記の取り組みをおこなっています。

- ① 加入促進の図る実働部隊として若手部会・若手委員会を立ち上げ
- ② 新規クラブ設立のマニュアル等を作成してシニアクラブ未設置地区の自治会長等の協力をえて新規クラブの立ち上げを図る
- ③ 会員増強の目的と年度目標（単位クラブで2名以上の純増）を会員全員に伝えて会長会議のたびに呼びかけをして目標を共有して一体的に取り組む
- ④ 単位クラブ会長に8月末と12月末に会員数の報告をしてもらい目標達成に向けての状況を把握してもらう。
- ⑤ シニアクラブ連合会の高齢事業以外に、若手委員会が主体となって会員以外でも参加できる新規事業を毎年実施し市広報等を通じて呼びかける。

【会員数の状況】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5年間の増加数
会員数	3,838	3,878	4,043	4,144	4,127	4,302	
増加数	-	40	165	101	△17	172	464

組織の活性化につながった

- ・各部会間の連携がより図れるようになり市シニア連組織の活性化につながりました。
- ・新規事業を市広報紙で募集したことで市シニア連の活動を市民にPRすることができました。

若手高齢者の加入と人材育成に取り組む必要がある

会員の高齢化と会長等役員の成り手が減少する中、シニアクラブ活動を次世代に円滑にバトンタッチできるよう若手高齢者の加入と人材育成に取り組んでいきたいと思っています。

また、それぞれの地域でお互いが助け合い、支え合いながら老後を元気に暮らすためには、活動に担い手の確保と会員増強が必要なので、2019年を初年度として今後5年間で200人増の会員増強運動に取り組んでいます。

（具体的な取り組み）

- ① 既存単位クラブでは、年間1クラブ1人純増を図る。（プラスワン友達入会運動）
- ② 今後5年間で市内51自治会のうちシニアクラブ未設置自治会（7自治会）ゼロを目標とする。

なお、シニアクラブ会員が30人に満たない未組織自治会については、隣接クラブの特別会員として加入登録し、活動に参画する。

新規会員の確保に向けて、恒例事業以外に会員でない人も参加できる時代の流れに応じた魅力ある新規事業を毎年行うようにします。

◇ グラウンド・ゴルフ部の復活が会員増につながる ◇

田尻町 田尻町長友会連合会 (クラブ数：2 会員数：396人)

グラウンド・ゴルフ部員の高齢化により活動が休眠状態となっていました。
部の存続に向けて会員増強運動と併せて様々な取り組みをすることで、部の復活と長友会会員の増加につながりました。

【会員数の状況】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5年間の 増減数
会員数	473	444	409	391	394	396	
増加数	-	△29	△35	△18	3	2	△77

※H30に減少から増加に転向した。

近隣老連との交流や世代間交流などに取り組む

① 隣接市の老連への協力依頼と交流

泉南市老連へ技術指導を要請しルール、マナー実技講習実施。

泉南市との交流が縁となり定期的に練習試合を泉南市で開催することになりました。

その結果、泉南市と友好関係を築け、会員は、対外試合を目標に技術力の向上をはかことができました。

そのほかにも、田尻町・泉南大浜地区親睦グラウンド・ゴルフ大会を始めたり、熊取ひまわりオープンや泉南なみはやオープンへ積極的に参加しています。

② 世代間交流

少年グラウンド・ゴルフ会員との合同練習や大会への支援に取り組みました。

その結果、田尻町子供会が泉州地区グラウンド・ゴルフ大会優勝に貢献することができました。

③ 活動のPR

公開練習を実施して見学者への入会の声かけをおこない体験型入会運動を始め、町の広報紙にその取り組みが掲載されました。

グラウンド・ゴルフの楽しさを体験した喜びの声をSC大阪機関紙「ねんりん OSAKA」(29年7月号)に投稿し掲載されました。

掲載の反響があり、新会員19名、編入会員7名、準会員2名の合計28名の入会がありました。

部員数の確保を目標に

グラウンド・ゴルフ会員の現状人数確保を目標にして、特に若手をターゲットに取り組んでいきます。

単位クラブの事例

◇ 自治会や地域の人に支えられて再スタート ◇

箕面市 唐池シニアクラブ (会員数：65人)

休眠状態のクラブを市老連の副会長の強い勧めと自治会や地区福祉会、ボランティアグループや自治会を拠点にしているカルチャーグループの方々の勧めにこたえて会員を募集し役員体制をつくり活動を再開しました。

クラブの班長会議を原則月1回開催、クラブのお知らせニュースも月1回発行し行事やクラブ独自の活動等を紹介しています。

「地域とのつながり、元気を生み出す老人会」を大切に活動をしています。

【会員数の状況】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	再開してからの増加数
会員数	-	-	-	42	54	65	
増加数	-	-	-	-	12	11	23

※H29年度から活動再開

会員の方が元気になり喜ばれている

月2回開催の健康麻雀や健康体操にそれぞれ15人前後が参加。

平成30年からはじめた送迎付きランチ会や地域のカルチャーグループとの小旅行は、ひとりでは出掛けにくい方が参加でき喜ばれています。

このような活動が話題になり「楽しいよ。」との会員の呼びかけで加入が広がっています。

地域で認められる

老人クラブの早朝のラジオ体操、子ども会や地域自治会で活用する近隣公園が豪雨で水浸しになり、老朽遊具の改善と豪雨対策が求められ、老人クラブも関連団体と共同で市に要望書を提出し、1年近くかかりましたが、改修されました。

このことで、関連団体ともつながり、安心してくらす街づくりにも共同でおこなう動きがうまれました。

地域の人材活用と荷をわかちあう役員体制の維持が課題

地域には、退職して在宅の高齢者がたくさんいます。優れた技量を持っている人が、のびのびと参加でき無理のない楽しい活動になることを目標にしています。

また、暮らしに不安を感じる方の相談や高齢化や独居世帯のくらし・健康・防災に少しでも役立つ活動を模索中です。

会を継続するために荷をわかちあう役員体制の維持が課題と考えています。

◇ 地道に個別訪問して会員増強 ◇

箕面市 豊川南第2豊寿クラブ (会員数：61人)

会員の高齢化が進み年々、会員が減少することに役員が危機感を感じるようになりました。そこで、宝寿クラブ連合会会長にアドバイスをもらい地道に一軒ずつ個別訪問をしてクラブの活動内容などを説明して入会をしてもらう活動をはじめました。

【会員数の状況】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5年間の 増加数
会員数	43	47	50	48	54	61	
増加数	-	4	3	△2	6	7	18

地域のつながりができた

「一声運動」として、老人クラブに未加入の地域の高齢者に個別訪問して入会を勧める活動を地道におこなったことで入会する人が増えました。

この「一声運動」は、一軒ずつ個別訪問することで、互いのことを知ることができ地域の人とのつながりをつくることになりました。

また、毎月1回開催の「カラオケ同好会」や「健康講話」（元看護師の会員の方が健康についての話をする。）などの活動を地域の高齢者に参加を勧めたことが、入会のきっかけになり会員を増やすことにつながりました。

地域で認められる

会員を増やすことは、地域の高齢者に地道に声をかけるのが、大切だと思い、これからも継続して「一声運動」をおこなっていきます。

また、クラブの活動を地域の人に知ってもらうことで、地域とのつながりを深め、クラブを認められるので、地道に活動し、少しずつ会員を増やしていきたいと考えています。

◇ 校区内の単位クラブが連携をして地域活動をはじめ ◇

箕面市 箕面北第2敬友会 (会員数：142人)

地域小学校区内に3つの単位クラブ（箕面北第1敬友会・箕面北第2敬友会・箕面北第3敬友会）があり、従前はそれぞれが単独で地域活動に取り組んでいましたが、平成26年度より合同で高齢者を対象として新しい地域活動を開始しました。

【会員数の状況】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5年間の増加数
会員数	100	124	126	123	139	142	
増加数	-	24	2	△3	16	3	42

新しい地域活動の取組み

- ①健康長寿を目標に地域内在住の全ての高齢者を対象として“楽しく集う場”作り新しい地域活動の展開
コーラス、健康麻雀教室、初詣と春のバスツアー等
- ②自治会の支援を取り付ける
助成金・広報活動（チラシの回覧等）
- ③コミュニティセンターとの共同事業の開始
健康教室等の実施

行事への参加者が増え会員増につながる

老人クラブ会員の枠を越えて地域在住の高齢者を対象にした取り組みをはじめたことで、だれもが参加できる行事をおこなったことで参加者が増えクラブに入会してもらえるなど大きな成果につながりました。

箕面北第2敬友会の場合は、この事業をはじめてから会員が81人から142人に61人も増えました。

人材と会場の確保が課題

事業を拡大したことで、運営に関わる若手委員を確保することと、会場を確保することが課題になっています。

◇ 明るく、仲良く、楽しいクラブを目指して ◇

豊中市

みゆきクラブ

(会員数：196人)

地域の60歳以上の方を支援、社会に貢献できる人材の育成と健康寿命を延ばし明るく、仲良く、楽しいクラブを目標に活動をしています。

また、この地域が今後、数年で大きく変わる可能性があることを期待をし、クラブとして地域との意見交換にも参画をしています。

【会員数の状況】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5年間の 増加数
会員数	170	174	178	181	188	196	
増加数	-	4	4	3	7	8	26

会員の方が元気になり喜ばれている

(主な活動)

- ①友愛活動や公園・緑道の清掃活動、小学校下校時の見守り活動などで地域に貢献している。
- ②6つのクラブ活動
グラウンドゴルフ、カーリンコン、踊りの会、詩吟クラブ、大正琴クラブ、みゆきサロン
- ③親睦花見会(年1回)、親睦日帰り旅行(年2回)、観劇会(年4回)、クラブ活動の発表会などの行事の実施

・会員の方からクラブ活動に参加することで「元気になった。」と喜ばれています。

役員、班長の役割が大事

役員、班長が、会員や地域の高齢者に活動や行事への声掛けすることで、会員が毎年増加しています。

また、役員、班長の意思疎通が良く情報伝達がスムーズなことが、クラブの運営がうまくいくことにつながっています。

地域の人材活用と荷をわかちあう役員体制の維持

これからも声掛けを優先に地域の輪を広げ一人一人の尊厳を守り、それぞれが自信をもって活動できるよう支援できるクラブにしていくことです。

◇ 世話役会で勧誘方法を協議 ◇

茨木市

彩都シニア倶楽部きらり

(会員数：174人)

平成27年には、会員数が160人を超えたものの、その後は、会員数が伸び悩みになりました。会員の平均年齢も毎年上がり、倶楽部を運営する世話人の候補者も一層と少なくなっており倶楽部の活性化のために新たな会員の勧誘をおこなうことにしました。

【会員数の状況】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5年間の 増加数
会員数	151	162	160	160	156	174	
増加数	-	11	△2	0	△4	18	23

活性化のために

毎月開催する世話人会で数か月かけて具体的な勧誘方法を協議し世話人の負担が少なく効果的な方法を導き、具体的な勧誘活動方法を決定しました。

「倶楽部の活動を紹介するチラシの作成と掲示」と「情報誌へのPR」及び「口コミ」の3つを勧誘の手段として、従来の勧誘方法である「地域内の私的共有施設に入会申込書を入れたBOXを設置」と「会員間の口コミ」に加えることにし、新たな勧誘活動を実施することにしました。

【新たな勧誘方法】

- ・ 地域内の全マンションと全集会所に新たに作成した勧誘チラシを3か月間掲示
- ・ 地域内のスーパーマーケット等の施設に勧誘チラシを3か月間掲示
- ・ 地域内全戸配布の地域会報（年2回発行）に入会案内を掲載
- ・ 毎月開催している「cafeきらり」の開催案内を全マンションや地域内の施設に掲示
- ・ 11あるサークルを通じて近所の非会員への日常的勧誘

今後の対応

- ・ 絶えず世話人が勧誘を心がけるようにしていきます。
- ・ 今年1年間の入会状況を見ながら来年度に勧誘方法を協議する予定です。

◇ 会費の改定とクラブ事業の見直しで参加者が増える ◇

柏原市

田辺福寿会老人クラブ

(会員数：75人)

平成29年に会長の交代に伴い加入促進のため会則の一部改定をおこない会費の徴収対象年齢枠と額を変更することにしました。

また、クラブの事業の見直しと新規事業の実施にも取り組みました。

【会員数の状況】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5年間の 増加数
会員数	67	69	68	76	81	76	
増加数	-	2	△1	8	5	△5	9

会費を改定したことで行事に参加しやすくなった

・会則を変更して会費を改定

正会員（60～79歳）：200円/月

長寿会員（80歳以上）：0円

⇒

イキイキ会員（60～79歳）200円/月

ゴールド会員（80～89歳）100円/月

ダイヤモンド会員（90歳以上）：0円

※新年会で喜寿と米寿の祝賀をおこなう

会費の改定は、ゴールド会員（80～89歳）から「遠慮せずに行事に参加しやすくなった。」と喜ばれて出席率が増えました。

クラブの事業の見直しと新規事業の実施で会員増

お茶カラ（月1回） 健康講座（年1回） お誕生会（年3回）※新規
友愛将棋クラブ（老人ホームで月1回）

「お茶カラ」は、やり方を見直して、禁酒・禁煙で各自がお茶とお菓子持参し、唄ったり、おしゃべりをするようにして、ちょっとした「認知症予防カフェ」のようで好評です。

今後は、友愛委員で会員増強に取り組む

会員増強運動は、地道な声掛け運動の継続が、効果的と思い、今後は友愛委員3名編成で新規会員の獲得に向けて取り組みます。

《エピソード》

地域内の難病で引きこもりの方に社会福祉協議会や民生児童委員、福祉委員の協力をえて老人会が友愛訪問を重ねることで老人会に入会し新年会に参加することができるようになりました。その後、健康講座で自身の闘病生活を報告し「お茶カラ」にも参加するようになり、今では、老人会の班長になっています。

◇ 地域外の人でも参加できることで会員増 ◇

富田林市

みのり会

(会員数：65人)

市内に住んでいる高齢者であれば、サークル活動に参加でき入会できるようしました。
そのため、会の活動拠点の「いこいの家」から離れた地域からも参加され入会につながっています。

また、同じ「いこいの家」を活動拠点として使っていたクラブが継続できなくなり、その人たちを受け入れることになったことも会員増につながりました。

【会員数の状況】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5年間の 増加数
会員数	23	35	43	50	56	65	
増加数	-	12	8	7	6	9	42

サークル活動に参加する人が入会してくれる

- ・映画観賞
 - ・ダンス
 - ・ゲームクラブ
 - ・麻雀クラブ
 - ・笑顔はつらつ教室
 - ・フラダンス
 - ・囲碁将棋
 - ・カラオケ
 - ・コーラス
 - ・ミセスセブン(※)
 - ・大正琴
 - ・お茶の会
 - ・歌声喫茶
- (全13)

※ミセスセブンは、70歳以上の女性が集まる「おしゃべり会」

サークル活動が、たくさんあることも参加しやすい理由になっていると思います。

特にフラダンス(会員25人)や麻雀クラブ(会員20人)は人気があり、離れた地域から参加する方もいます。

これらのことで、5年間で会員が42人増加しました。

会員100人を目指して

会員を5年間で35人増やして100人を目指します。

そのためには、魅力ある活動を継続していくことと、その活動を地域の人に知ってもらうことに取り組む必要があると思っています。

◇ 新規事業と班長の口コミで会員増強 ◇

高石市

第1区老人クラブ高千代会

(会員数：353人)

各班長が中心になって未加入者に個別に口コミで勧誘をおこなっています。

新規事業をはじめたことと既存事業に会員以外の方が参加できるようにして誘ったことで会員が増えました。

【会員数の状況】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5年間の増加数
会員数	315	329	339	347	350	353	
増加数	-	14	10	8	3	3	38

新規事業に会員以外の方が参加できるようにして会員が増えた

地道な声かけと事業への参加の呼びかけをしたことで平成26年度から5年間で会員が38人増加しました。

また、新規事業としてカラオケとボウリングを実施したことで既存事業のうち、パークゴルフに会員以外にも参加の声掛けをしたことで会員が増えました。

新規事業に取り組んだことと新規会員が加入したことが、組織の活性化につながりました。

女性を主体にした入会活動に取り組む

会員の高齢化により亡くなる方や施設に入所する方が増加しており、会員の純増を図ることが年々厳しくなっています。

会員の高齢化と役員の成り手不足の解消のため若手高齢者の積極的な加入促進と人材育成に取り組んでいきたいと考えています。

今後は、各班長が中心に取り組んでいる会員増強運動を婦人部を主体とした入会活動に切りかえて取り組むことにしていきます。

◇ 自治会と連携をして取り組む ◇

泉大津市

条南町 長生会

(会員数：144人)

会長が自治会の会議や老人会の会議で加入促進の目標を掲げ毎月状況報告をおこない役員で加入促進に取り組んでいます。

【会員数の状況】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	5年間の 増加数
会員数	135	131	134	126	147	144	
増加数	-	△4	3	△8	11	△6	9

色々な方法で勧誘をした

◇勧誘方法ごとの入会者数の状況

勧 誘 の 方 法	入会者数
会長が自治会の役員に未加入者を伝えて勧誘した	3人
会長が未加入者の近くに住んでいる老人会役員や班長に未加入者を伝えて勧誘した	5人
集会所で行っているクラブ活動に参加している未加入者に声をかけて勧誘した	4人
脱会していた方に会長が訪問して再加入を勧めた	2人
未加入者の状況を近所の会員から聞いて会長及び副会長が訪問して勧誘した	7人
	合計 21人

【クラブ活動】

- ・条南若葉会（混声合唱） ・コーラス ・グラウンドゴルフ ・パークゴルフ
 - ・ディスコン ・ボウリング ・カラオケ ・如月会（踊りの会） ・手芸
 - ・ペン習字 ・絵手紙
- 10クラブ

今後の取り組み

多数のクラブ活動があり参加者は楽しんでいますが顔触れが同じです。

未参加者や老人会未加入者の中にはクラブの活動内容を知ること、興味を抱き参加されるかもしれません。

今後は、各クラブの代表者にクラブ活動のチラシを作成してもらい、それをまとめて老人会のパンフレットにして会員や未加入者に配布したいと思っています。

この「活動事例集」の作成にあたり、ご協力いただきました
市町村老連や単位クラブのみなさまに厚くお礼申し上げます。

企画・編集

SC 大阪若手委員

委員長	吉野武彦	(豊中市)
副委員長	林洋雄	(八尾市)
委員	中村恵造	(箕面市)
	乾修	(茨木市)
	天野守	(交野市)
	土井鉄次郎	(東大阪市)
	田井中正勝	(柏原市)
	吉田美代子	(富田林市)
	柴田正明	(高石市)
	高橋勝彦	(泉大津市)
	沼田一夫	(田尻町)



一般財団法人 大阪府老人クラブ連合会
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4-15
大阪府社会福社会館内
tel 06-6761-6480 fax 06-6765-3302
<http://www.sc-osaka.org/>

SC 大阪は、大阪府老人クラブ連合会の愛称です